

CHOFU 高圧力型石油瞬間給湯器 高圧力型石油小形給湯機〔温水ボイラー〕

型名 IB-4552SGH 工事説明書

機器を据付ける前に必ずこの工事説明書をよくお読みの上、正しく据付けてください。なお、この工事説明書は工事終了後、取扱説明書と共に必ずお客様にお渡しください。

特に注意していただきたいこと

●ここに示した事項は、危害・損害の程度によって次のように分類されます。いずれも安全に関する重大な内容を記載していますので、必ず守ってください。

警告	この表示を無視して作業を誤った場合に、作業員またはその作業後の不具合によって使用者が死亡、重傷を負う可能性、または火災の可能性が想定される内容を示しています。
注意	この表示を無視して作業を誤った場合に、作業員またはその作業後の不具合によって使用者が軽傷を負う可能性、または物的損害の発生が想定される内容を示しています。

●絵表示には次のような意味があります。

	一般的な禁止		アースを接続すること
	必ず行うこと		電源プラグを抜くこと

警告

火災予防条例、電気設備に関する技術基準、電気工事や水道工事はそれぞれ指定の工事店に依頼するなど法令の基準を守ってください

据付けや移動は、販売店または据付業者が行ってください

●お客様ご自身で据付けをされ、不備があると火災や感電の原因になります。

排気筒は確実に接続

●排気筒は確実に接続し、しっかりと固定してください。風・振動・衝撃などではずれたりすると運転中に排ガスが室内に漏れて危険です。

屋内排気禁止

●屋内に排気すると排ガスが室内に充満して危険です。必ず屋外に排気してください。

屋内設置禁止(拡散排気筒使用時)

●拡散排気筒を取付ける場合は、必ず屋外に設置してください。また屋外でも通気の悪い場所には設置しないでください。火災や予想しない事故の原因になります。

家庭用以外の使用禁止

●この機器は家庭用です。業務用に使用すると法令違反になります。

付属品の確認

●梱包されている付属品に不足がないことを確認してください。

排水用ホッパー	送油管	給水口保温材	プラグ(1/2)	取扱説明書(保証書付) 工事説明書	本体に貼付 所有者票袋 所有者票 保護シール (特定保守製品説明書)

※製品改良により、本体・仕様などが説明書の内容と異なる場合がありますので、あらかじめご了承ください。

注意

次の場所には据付けない

- 火災や予想しない事故の原因になります。
- 水平でない場所、不安定な場所
- 不安定な物を載せた棚などの下
- 可燃性ガスや腐食性ガスの発生する場所または、たまる場所(マンホールや排水口などに近い場所)
- 燃焼に必要な空気を取入れる空気取入口のない場所
- または、換気が行えない場所(屋内設置の場合)
- 付近に燃えやすいものがある場所
- 階段、避難口などの付近で避難の支障となる場所
- 排水のしにくい場所
- 浴室

作業時は保護具を着用する

●作業時は手袋などの保護具を着用してください。

換気扇や換気システムの吸込口や排気口付近には、機器本体および排気筒の排気部を設置しない

●排ガスを室内に吸い込み、健康を害するおそれがあります。

可燃物との距離を離す

●機器の周囲に可燃物がある場合は、図の離隔距離を守ってください。防熱板、不燃材の場合は離隔距離が緩和されますので、各地域の火災予防条例を参照してください。

●据付ける際には配管のためのスペースを考慮に入れてください。

●屋内設置の場合は金属製以外の不燃材(スレートなど)の床の上に据付けるか、または防火上有効な措置を講じた金属製の台上に据付けてください。

●拡散排気筒を使用する場合は屋外の開放された場所に設置してください。

標準据付例

屋内設置の場合

(排気筒(エルボトップ)の場合)

(排気筒(エルボトップ)の場合) (拡散排気筒の場合)

屋外設置の場合

(排気筒(エルボトップ)の場合) (拡散排気筒の場合)

換気口を設置する(屋内設置の場合)

スチールガラリ	2.0
木製ガラリ	2.5
パンチングパネル	3.4

(例) スチールガラリを取付けた場合 490cm²×2.0=980cm²以上が2箇所必要となります。

家屋貫通部の注意

●排気筒が可燃性の壁などを貫通する部分は、必ずめがね石めがね鉄板を使用してください。

●小屋裏・天井裏などにある部分は、金属以外の不燃材で防火上有効な被覆を行ってください。

●可燃性の壁・天井・小屋裏・天井裏などを貫通する部分およびその付近では、排気筒を接続しないでください。

●地域により異なることがありますので、各地域の火災予防条例を参照してください。

排気筒の固定

●排気筒は風や振動などで倒れないよう、支え金具や支え線などで固定してください。

●排気筒は固定金具で1.5～2m 間隔で固定し、自重を支える部分は支えまたは吊り金具で堅固に支持してください。

●機器の接続口に排気筒をねじ(3本)で固定してください。

排気筒の交換

●機器交換時には排気筒・排気筒トップ・固定金具も交換してください。

●異形排気筒は使用しないでください。

油タンクとの距離を離す

●油タンクは機器より2m 以上離して据付けるか、防火上有効な遮へいを設けてください。

●油タンクは不燃材でできた水平な基礎の上に据付けてください。

ゴム製送油管の屋外使用禁止

●屋外では必ず金属管(銅管など)を使用し、ゴム製送油管は絶対に屋外で使用しないでください。ひび割れを生じて油漏れの原因になります。

排気筒の点検

●排気筒の取付けが終わりしたら、もう一度点検してください。次のような取付けは危険であったり、不完全燃焼をおこすおそれがありますので、必ず修正してください。

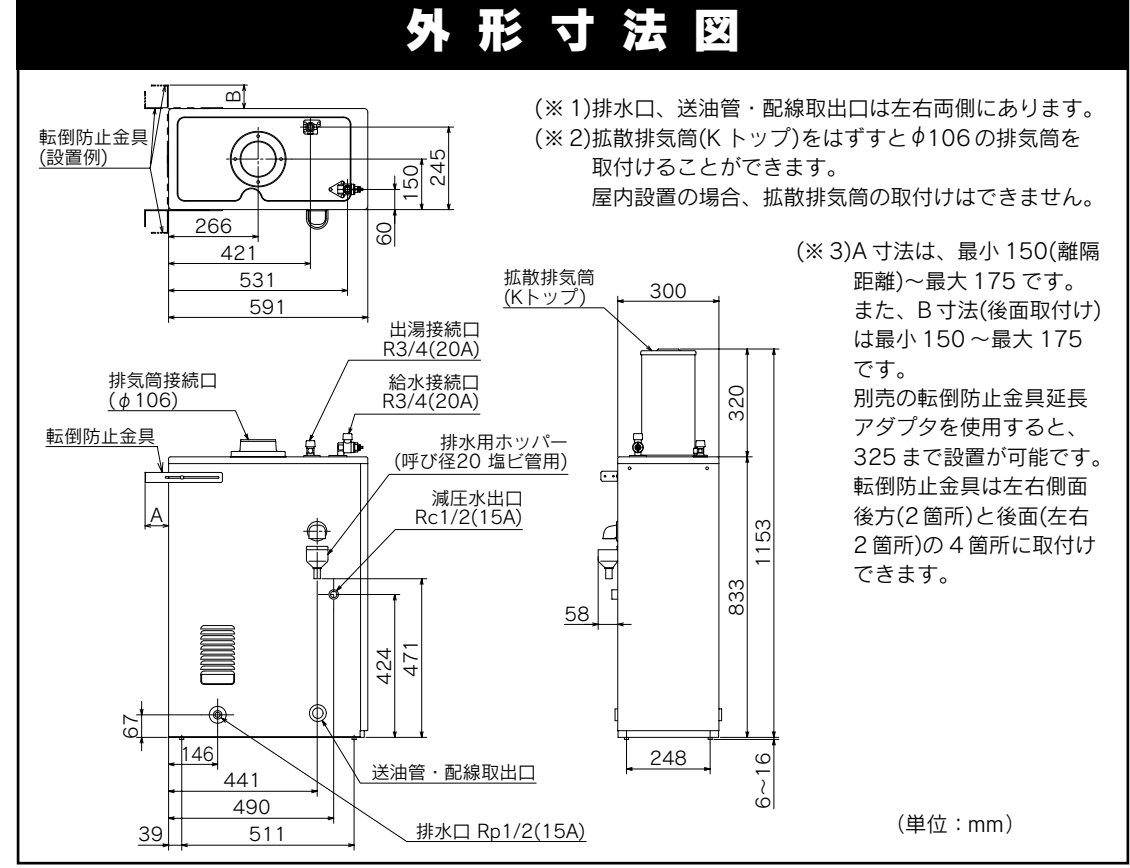
上り勾配禁止	5m2 曲がり以下のこと	エルボトップと建物(隣家を含む)の開口部(窓など)は1m 以上離れていること	拡散排気筒トップと建物(隣家を含む)の開口部(窓など)は60cm 以上離れていること

アース工事をすること

●アース工事を確実に行ってください。故障や漏電のときに感電するおそれがあります。

囲い禁止(屋外設置の場合)

●機器や拡散排気筒を波板などで囲わないでください。不完全燃焼や火災の原因になります。



据付け

「特に注意していただきたいこと」の項も必ず確認してください。

1 機器の設置

- 機器は必ず水平に置かれていることを確認してください。(水準器などで確認してください。)傾いていると対震自動消火装置が誤動作します。
- 機器をコンクリートなどで埋め込まないでください。
- 設置床面は凹地にしないでください。水やゴミがたまって不具合発生の原因になります。

2 排水用ホッパーの取付け

1. 付属の排水用ホッパーを機器左側面のオーバーフロー口の下のねじ(2本)をはずして、そのねじで固定してください。
2. 排水用ホッパーに市販の塩ビ管(呼び径20)を接続して排水溝へ配管してください。(「水道配管」参照)

※排水ホースは排水のとびはね防止のため排水用ホッパーの中まで入れてください。

3 油タンクの設置

- 風通しがよく、できるだけ直射日光があたらない場所に設置してください。
- 油タンクの容量が200リットル以上の場合は消防署へ「危険物の貯蔵・取扱届」が必要です。ただし、個人の住居に設置するときは不要となる場合があります。詳しくは各地域の火災予防条例を参照してください。(所轄の消防署に確認してください。)
- 油タンクには必ずドレン柱を設けてください。

4 送油管の取付け

注意

- 接続部から油漏れがないように注意してください。
- 送油管が機器内の部品に接触しないように接続してください。

●屋外では必ず金属管(銅管など)を使用し、ゴム製送油管は絶対に使用しないでください。

- 送油管が途中で逆U字型になって、空気だまりができませんようにしてください。
- 送油管内のゴミなどを取除いてください。
- 送油管接続口に送油管をしっかりと接続してください。
- 図のように油タンクに送油バルブを取付けて、送油管を接続してください。

悪い例

逆U字配管 空気だまり 送油管

5 送油経路の空気抜き

1. 油ストレーナの下に受皿などを置きます。
2. 油タンクの送油バルブを開け、油ストレーナの空気抜きねじを緩めて、灯油が連続して出てきたらねじを締めます。
3. こぼれた灯油をふきとります。

●試運転時に油ストレーナの空気抜きを行っても、電磁ポンプ内の空気が抜けるまで振動音が出たり、着火しないで警報になることがあります。故障ではありません。警報になった場合はリモコンの運転スイッチを押して一度「切」にし、再度押し「入」にしてください。

別売部品

この機器には別売の台所リモコンセットが必要です。台所リモコンセットを取付けないと操作できません。(増設リモコンを追加することができます。)

- 台所リモコンセット [IR-4V] (リモコン(CMR-2101V)・リモコンコード) [IR-6] (リモコン(CMR-2202)・リモコンコード)
- 増設リモコンセット(CMR-2200S)
- リモコンコード
- 油切れ予告装置(OC-3)
- アミ付エルボトップセット
- 転倒防止金具延長アダプタ

水道配管

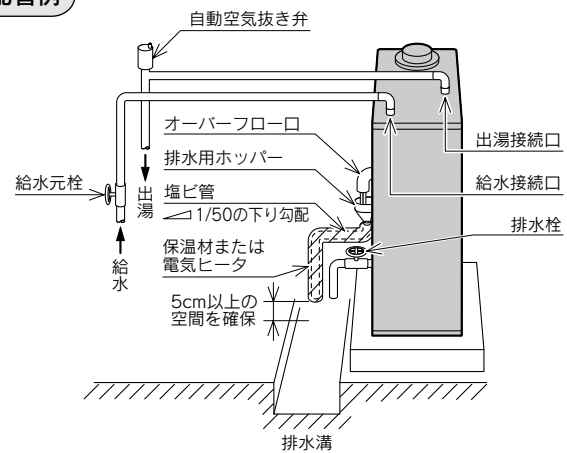
⚠️ 注意

- 配管工事は各市町村水道局(課)の指定工事店に依頼し、規定に従って工事を行ってください。
- 配管材料、シール材などは各市町村水道局(課)承認のものを使用してください。
- 配管はすべて保温してください。
- 出湯配管は脱酸銅管またはステンレス管をおすすめします。塩ビ管は使用している間に破裂するおそれがあります。また、銅管は赤錆発生の原因になりますので使用しないでください。
- この機器は上水道用です。給水には上水道を使用してください。

配管上の注意

- この機器には減圧弁・逆止弁・逃し弁を内蔵しています。
- 上水道に直結する場合は、水道局(課)の認可が必要です。詳しくは所轄の水道局(課)に確認してください。
- 配管を機器の接続口に接続する場合は、必ずスパナ・パイプレンチなどを接続口にかけて、機器に無理な力がかからないように注意してください。
- 配管は取りはずしができるように部材を使用して接続してください。
- 機器内に空気がたまらないように、できるだけ出湯側に自動空気抜き弁を取付けてください。
- 機器に接続する前には必ず水を流して配管内のゴミを排出してください。
- 混合水栓はその混合水栓の仕様に従って接続してください。
- やけど防止のためサーモスタット付混合水栓の使用をおすすめします。
- 絶対に減圧水出口に上下水道やポンプ、太陽熱温水器を接続しないでください。
- 配管を接続しない側の排水口は付属のプラグを取付けてふさいでください。
- 太陽熱温水器を接続する場合はソーラー接続ユニットを使用して直圧式の太陽熱温水器を給水側に接続してください。

標準配管例



給水配管

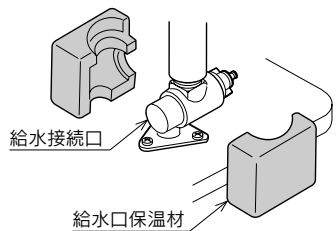
- 機器の給水接続口の近くには必ず給水元栓を取付けてください。
- 給水管は水道管から直接配管してください。

出湯配管

- 機器は使用頻度が高い場所の近くに取付け、出湯配管はできるだけ短くしてください。
- 混合水栓は通水抵抗の少ないもの、またシャワーヘッドは圧力損失の少ないものを使用してください。
- 継手類はできるだけ少なくし、複雑な配管にならないようにしてください。
- 空気だまりができないような配管にしてください。

配管の凍結予防

- 保温は水漏れ確認後に行ってください。
- 保温材の端面は防水処理を行ってください。
- 給水接続口を給水口保温材(付属品)で保温してください。
- 凍結のおそれがある地域では市販の電気ヒータを配管やバルブ類に巻いて、十分な保温を行ってください。保温が充分でないと凍結予防処置を行っても効果がありません。
- ホッパー排水配管が凍結するおそれのある地域では、その地域に応じた保温処置(保温材の施工または配管用電気ヒータの取付け)を行ってください。ヒータを使用する場合は、排水用塩ビ管に対応したヒータを使用し、ヒータの工事説明書に従って取付けを行ってください。**注意：適切なヒータを使用しない場合、発火の可能性があります。**
- 水抜きが簡単にできるように配管し、もしできない場合は配管の途中にドレン栓を取付けて水抜きができるようにしてください。
- 凍結予防工事を完全に行っても、お客様が凍結予防を実行しないと凍結することがあります。取扱説明書に従い、実際に操作して説明してください。



リモコンの接続

⚠️ 警告

- リモコンコードが熱交換器・バーナーなどの燃焼部やヒータに接触しないように配線してください。
- 余ったリモコンコードは機器外でまとめ、機器内に入れしないでください。また、リモコンコードを切断して使用するときは、樹脂スリーブ付のY形端子を使用してください。

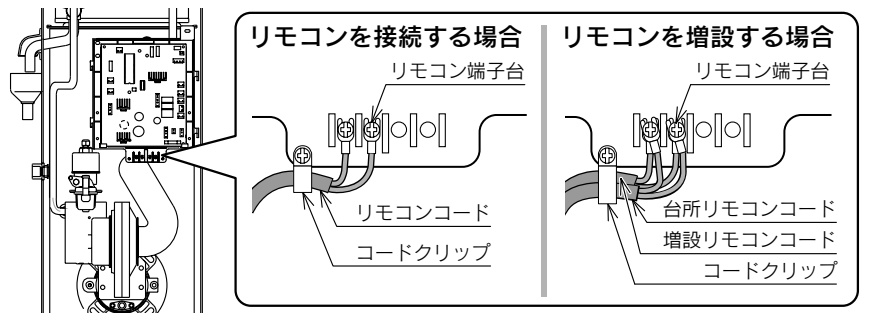
- この機器には別売の台所リモコンセットが必要です。台所リモコンを取付けないと操作できません。また別売の増設リモコンセットも接続できます。
- 機器とリモコンの接続は小勢力回路の工事に該当し、電気工事士の資格がなくてもできますが、電気設備に関する技術基準に従って工事を行ってください。
- 電動ドライバーは絶対に使用しないでください。端子のねじ穴が破損して接触不良を起こすおそれがあります。
- リモコンコードは電源プラグを抜いた状態で接続してください。

リモコンの取付け

リモコンの取付けはリモコンセット付属の「工事説明書」をご覧ください。

機器との接続

1. 電源プラグがコンセントに差し込まれていないことを確認します。電源プラグを差したままリモコンコードを接続しないでください。
2. 前パネルのねじ(2本)ははずして前パネルははずします。
3. 機器側面の送油管・配線取出口を通してリモコンコードを機器内に入れます。
4. リモコンコードをリモコン端子台に接続します。リモコンコードは無極性ですので+はありません。ドライバーなどが他の電子部品に接触しないように注意してください。
5. リモコンコードをコードクリップでしっかりと固定します。
6. 前パネルを元通りに取付けます。



電気配線

⚠️ 警告

- 電源コードの届く範囲にコンセントがないときは、電力会社の指定工事店に依頼し、所定の電気配線をしてください。絶対に電源コードを切断して延長しないでください。火災や感電の原因になります。
- 電源コードは束ねたまま使用しないでください。また、余った電源コードやアース線は機器内に入れしないでください。火災の原因になります。
- 電源コードが熱交換器・バーナーなどの燃焼部やヒータに接触しないように配線してください。

使用電源

- 電源は必ずAC100Vを使用してください。絶対に200Vに接続しないでください。機器が破損します。

電圧降下

- 電圧が降下すると故障・誤動作の原因になります。

電源周波数

- この機器は50Hz・60Hz共用です。

接地(アース)

- アース工事を確実に行ってください。アースが不完全な場合は、感電するおそれがあります。
- 機器内の底板にアース端子があります。
- 電気設備に関する技術基準および内線規程に基づき、D種接地工事を行ってください。(接地抵抗100Ω以下)
- アース線はガス管・水道管・避雷針・電話のアース線に接続しないでください。



排気筒の取付け

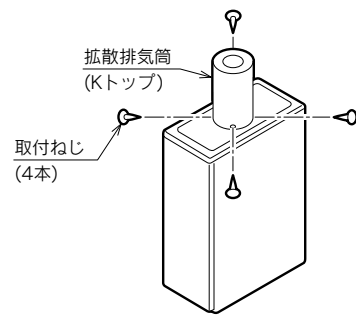
裏面の「特に注意していただきたいこと」の項も必ず確認してください。

- この機器には必ず排気筒を取付けてください。

拡散排気筒(Kトップ)の取付け(屋外設置のみ)

⚠️ 注意

- 排ガスの吹き出し方向は拡散排気筒の取付けにより変えられますので、機器周辺の壁などの状況に応じて安全な方向に取付けてください。また、排ガスにより、給水・出湯配管の保温材が損傷しないように断熱などの処置を行ってください。



排気筒の取付け(屋内設置のみ)

■排気筒の径

- 排気筒の径はφ106mmです。途中で細くしないでください。

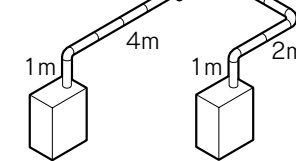
■排気筒トップの形状

- アミ付エルボトップ(別売部品)を使用してください。

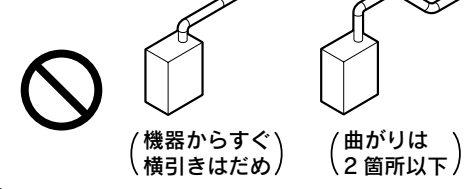
■排気筒の設置

- 排気筒の設置は次のことに注意してください。
- 長さは5m以下にしてください。
- 縦は最低1mは必要です。機器からすぐ横引きすることはできません。
- 横引きは4m以下にしてください。
- 曲がりには2箇所以下にしてください。(トップは含まない)
- 排気筒は必ず屋外に向かって下り勾配になるようにしてください。
- 排気筒の取付けは機器の接続口(排気筒接続口)を最も低い位置とし、立ち下がりがりや凹部をつくらないでください。排気筒に結露水がたまり、異常燃焼の原因になります。

正しい例



悪い例

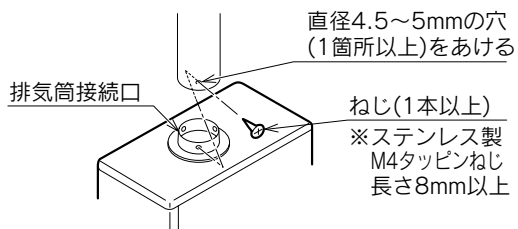


■排気筒トップの位置

- エルボトップは下向きにしてその開口部を可燃物から上方・前方は30cm以上、下方は60cm以上離してください。
- エルボトップを上向きや横向きにはしないでください。

■排気筒の接続

- 機器と排気筒は次の要領で接続してください。
- 1. 排気接続口のねじ穴に合わせて、直径4.5～5mmの穴を排気筒にあけます。
- 2. 排気筒接続口に排気筒を差し込んで、ねじ(1本以上)で固定します。

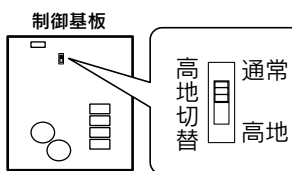


■集合煙突利用の禁止

- 排気筒は絶対に集合煙突に接続しないでください。

高地で使用するときの処置

- 標高1,000～1,500mの高地で使用するとき、制御基板上の高地切替スイッチを「高地」に切替えてください。お買い求め時は「通常」になっています。
- 高地切替スイッチは電源プラグを差し込む前に切替えてください。
- 標高1,500mを超える場所では使用できません。



据付工事後の点検・確認

- 据付工事が終わりましたら、もう一度確認してください。

機器およびその周辺

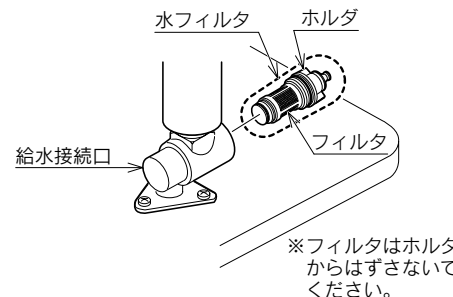
- 可燃物との距離および防火上の処置は充分ですか。
- 点検や修理など保守・管理上必要なスペースがありますか。
- 設置条件を満たしていますか。
- 機器や配管の接続部に水漏れはありませんか。
- 機器・油タンク・送油経路に油漏れはありませんか。

電気配線工事

- 機器およびリモコンへの配線は、指定された工事で行われていますか。
- D種接地工事はされていますか。

水フィルタの掃除

- 給水接続口の水フィルタを取出し、フィルタにつまっているゴミを取除いて、元通りに取付けてください。



※フィルタはホルダからはずさないでください。

試運転

- 試運転は必ずお客様と一緒に行ってください。

1 試運転

1. 取扱説明書の「据付け」の「試運転」に従って行ってください。
2. 正常運転することを確認してください。
 - ・バーナーの点火や消火は確実に行われていますか。(リモコンの燃焼表示で確認してください)
 - ・試運転時は内部の防錆油が燃える(気化する)ため、煙や臭いが出ることがありますが、しばらく燃焼すると防錆油が燃える煙や臭いは出なくなります。
 - ・給湯温度調節はできますか。お湯の温度が変化することを確認してください。

2 お客様がすぐに使用されない場合

- 試運転後、機器や配管内に残った水をお客様が使用されるまで放置すると、凍結して機器が破損したり、熱交換器内の水が変質したりすることがあります。必ず水を抜いてください。(取扱説明書参照)

引き渡し

お客様への説明

- 取扱説明書に従って取扱方法をお客様に説明してください。
- 保証書に必ず必要事項をご記入のうえお客様にお渡しください。また、取扱説明書に従い「アフターサービス」について説明してください。

所有者登録

- この機器は消費生活用製品安全法の『特定保守製品』に指定されています。お客様に「法定説明事項」をご説明の上、所有者登録(所有者票(はがき)の返送)について説明してください。

廃棄するときの注意

- 機器を廃棄するときは、必ず灯油を抜いてください。リサイクルの支障となります。

住宅設備機器総合メーカー
株式会社 長府製作所



●本社 〒752-8555 山口県下関市長府扇町2-1 ☎(083)248-1111
FAX(083)248-1906

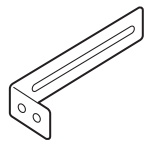
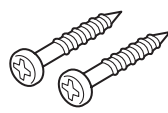
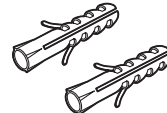
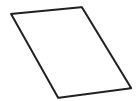
転倒防止金具

工事説明書 別紙

●この機器は「建築基準法施行令」に基づき、転倒防止措置を行う必要があります。
 機器付属の工事説明書「据付け」の「1 機器の設置」を行った後、以下の「転倒防止金具の取付け」に従い機器を建物の壁に固定してください。

付属品の確認

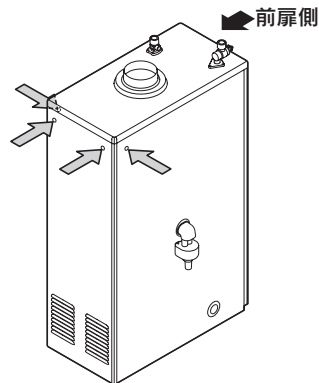
●梱包されている付属品に不足がないことを確認してください。

			
転倒防止金具	木ねじ(2本)	フィッシャープラグ(2個)	工事説明書別紙(本紙)

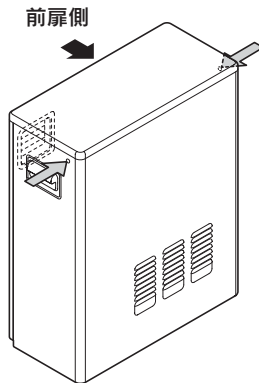
転倒防止金具の取付け

1. 転倒防止金具を取付ける部分のねじ(1本)をはずします。
 転倒防止金具取付用のねじは機器の左右側面後方に各1本、後面に2本あります。(前面排気タイプは後面に取付用のねじはありません。)

屋内・屋外排気筒タイプ
 拡散排気筒タイプ



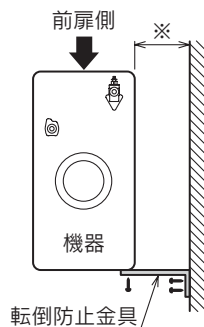
前面排気タイプ



後面が壁の場合



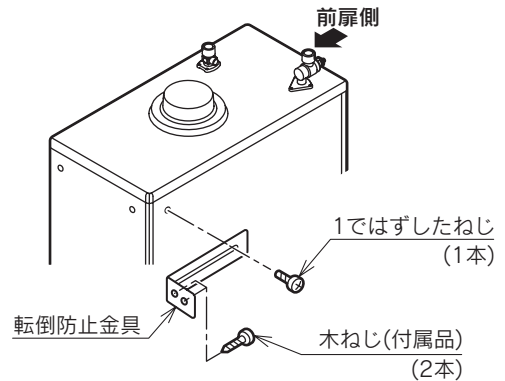
側面が壁の場合



転倒防止金具
 (左右どちらでも取付けが可能です。)

※壁からの離隔距離は機器付属の工事説明書を参照してください。
 壁から180mm以上離れる場合は、別売の延長金具(壁から290mmまで)を使用してください。

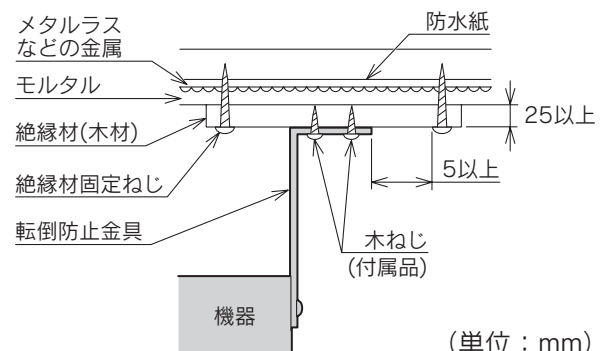
2. 1ではずしたねじ(1本)で転倒防止金具を取付けます。



3. 転倒防止金具を付属の木ねじ(2本)で壁に固定します。
 ●コンクリート、モルタルなどの壁に固定する場合は、付属のフィッシャープラグを使用してください。

下穴径	穴深さ
6mm	40mm

- 壁がモルタルのときは、壁内の金属に木ねじ(付属品)が当たらないように注意して施工してください。
- メタルラス張り・ワイヤラス張り・金属板張りなどの壁に取付けるときは、これらの壁と機器が電氣的に接続しないように設置してください。(電気設備に関する技術基準)



(単位: mm)